


教育事業「青少年の体験活動等の重要性についての普及・啓発」

事業名	文部科学省委託事業 青少年体験活動フォーラム in 沖縄 ～生きる力を育む沖縄ミーティング～	
実施期間	平成23年11月26日（土）～11月27日（日）	
担当者	主任企画指導専門職 相澤 敬二	

I 事業の趣旨

青少年体験活動の関係者が一堂に会し、青少年の課題に対応した体験活動に関する実践発表、ワークショップ、情報交換等を行い、今後の青少年の体験活動の普及・充実を図る。

II 事業の概要

1 事業の目的

青少年の体験活動の全国的な普及・充実を目的に、特別講演、4つの分科会に分かれての実践事例発表会、今後の体験活動指導に活かすことを目的とした4つのワークショップを行った。

2 参加対象及び募集人員

（対象）

青少年教育行政担当者、青少年教育施設職員、学校教育行政担当者、学校教員、青少年団体関係者、民間教育事業者、その他青少年の体験活動に関心のある者

（募集人員）130名

3 参加状況

○青少年・学校教育行政担当者	10名
○青少年教育施設職員	64名
○学校教員	13名
○青少年団体関係者	2名
○その他関心のある方	15名
合計	104名

4 実施上の留意事項

- 体験活動の実践事例発表では、参加対象者に合わせ、民間団体関係者・学校関係者・青少年教育施設関係者・地域社会教育関係者の4つの分科会を設けた。
- ワークショップにおいては、体験活動の指導や普及に役立つ内容を実施した。
- 情報交換の場を設けることで、様々な分野の方々の交流を促し、今後の活動の幅を広げるきっかけとした。

5 実際の様子

1日目（11月26日）

《開会行事の様子》



《佐藤所長による主催者あいさつ》



《沖縄県教育委員会 大城浩教育長による来賓挨拶》



《渡嘉敷村 座間味昌茂村長による来賓挨拶》

《特別講演》「港の外をみよう」

講師：学校法人興南学園

理事長・校長 我喜屋 優 氏



《高校野球甲子園春夏連続優勝監督のお話》



《講師の話に聞き入る参加者》

《体験活動実践事例発表会》

(1) 民間団体による実践事例

発表者：総合型地域入°-ツラフ° NPO 法人ナク
ゼネラルクラブ マネージャー 矢貫 卓博 氏



《発表の様子》



《真剣にメモを取る参加者》

(2) 学校関係者による実践事例

発表者：琉球大学教育学部附属小学校
副校長 三田井 裕 氏



《自己紹介から！》



《真剣な表情の参加者》

- (3) 青少年教育施設関係者による実践事例
 発表者：沖縄県立糸満青少年の家
 主任専門職 石嶺 伝 氏



《少し緊張しています！》



《質問タイム》

- (4) 地域社会教育関係者による実践事例
 発表者：浦添市安波茶自治会
 会長 鈴木伸章 氏



《参加者の様子》

2日目（11月27日）
 《ワークショップ》

- (1) 体験学習法
 講師：沖縄自然環境ファンクラブ
 代表 藤井晴彦 氏



《よろしくお願ひします！》



《昆虫になったつもりで・・・》



《この蛙は・・・》

(2) 表現法

講師：TEAM SPOT JUMBLE

主宰 津波信一 氏



《ゆたしく！》



《構想を練っています》



《さあ、実演です》

(3) カウンセリング

講師：琉球大学保健管理センター

所長 古川 卓 氏



《カウンセリングマインドとは・・・》



《屋外に出たプログラム》

(4) パブリック・リレーションズ

講師：カルティベート

取締役協働支援部長 平井 雅 氏





《効果的な広報とは・・・》



《実際にやってみよう！》

《閉会行事の様子》



《佐藤所長による閉会のあいさつ》



6 アンケート（参加者の声）

《良かった点○、改善すべき点▲》

(1) 特別講演

- 野球指導を通しての人間づくりのヒントとなり、青少年指導者として有意義な講演だった。
- 教育の原点に立ち戻るような話が聞いてよかった。
- 生徒とのコミュニケーションづくり、子どもの成長に大人がどのように関わりをもっていくべきであり、どんなお手本になるべきか考えさせられた。

(2) 体験活動実践事例発表

- 様々な施設（国・県・市・指定都市）の事例を知ることができ、取り入れたい事業もあった。
- 民間での進め方で地域との結びつきが大切なことを理解した。
- 地域性を活かした体験活動の必要性を感じた。
- 自治会での取り組みを交えながら様々な楽しい話を聞くことができた。
- ▲討議する時間が短く、掘り下げた話ができなかった。
- ▲協議での柱が曖昧で、意見が出しにくかった。

(3) ワークシヨッフ

- 環境教育や体験学習は知ってはいるが、その一部を理解できた。今後更に学んでいきたい。
- 場の和ませ方、楽しませ方など参考になった。
- 大学で学んだカウンセリングの復習とともに新たに何が必要か、また、学校現場等での今後の取り組みを考えるヒントとなった。
- 事前のアンケートで参加者の様子に合わせて会が進み、多くを学べました。
- ▲内容はよかったが、ワークシヨッフとしては時間が短く、中途半端に終わってしまった。
- ▲活動内容によっては、活動場所の広さなどをもっと考慮するとよかった。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 4つの分科会に分かれての体験活動実践事例の発表は、今後の活動や指導の参考となった。
- ワークシヨッフは、今後の体験活動を充実させる上で、指導者の資質向上につながった。
- 九州各県からの参加者が一堂に会して交流する中で、課題解決や新たな取り組みへのヒントが得られた。

2 課題

- 参加者に偏りがあり、学校教員の参加が少ない。児童への体験活動を充実していく上で、教員の参加を促したい。
- 事例発表やワークシヨッフでは、ゆとりをもった時間を設定し、一つ一つの内容を充実させたい。